

「カラ類最小の野鳥・ヒガラ(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「カラ類」で最小の野鳥が「ヒガラ」(日雀)だ。スズメの体長が約14cm、コガラが13cmなのに対し、ヒガラは成鳥でも11cmしかない。体重もたった8gしかなく、カブトムシのオスと同じぐらいの重さだ。エナガ、キクイダタキなどは本種よりも更に小さいが、ヒガラは日本最小クラスの野鳥の一種と言える。



珍しい野鳥ではないのだが、北軽井沢に設置した餌台に現れる頻度は低い。これには理由がある。ヒガラは特にカラマツの種子を好む。このあたりにはカラマツが多く、冬でも枝や雪面にたくさんの果実(球果)が残っていて、ほとんど餌に困らないのだ。



カラマツの球果は、冬でも枝に残る。その球果の鱗片の間に種子が残っていて、ヒガラの餌になるのだ。ヒガラはこの隙間から種子を取り出すのが上手だ。



ヒガラは正面から見ると、シジュウカラに似ている。しかしシジュウカラよりずっと小さいこと、黒い胸羽がお腹まで続いていること、威嚇時にオウムのように「冠羽」立てるなどの特徴がある。周囲のヒマワリのたねと比べても、いかに小さな体かよくわかる。



カラ類は、枝の上で餌の種子を両あしではさみ、くちばしでつついて中身を食べる。ヒガラも同じような行動をとるが、一粒を食べ終わるのに時間がかかる。



ヒガラは自分よりも大きな野鳥がいても、まったく臆せずに餌台に来る。写真では「ヤマガラ・ヒガラ・コガラ」の順で、行儀よく順番を待っている。